

教文通信写真館

セグロセキレイ 2024/01/28
松本市

写真とエッセイ:伊藤広昭さん(生物教育研究会 松本県ヶ丘高校)

スズメの年間減少率が3.6%にのぼり・・・

エッセイのつづきは8 p

教文
通信

発行所

長野県教育文化会議

発行人

寺尾 真純

今号の記事

01-02

巻頭言

02

学校保健研究会第100回全県研究会

03

第32回全国教育研究交流集会

04-05

箕輪進修高校職場教研

「授業づくり研究会」

05-07

教育のつどいレポート紹介

「養護教諭が行う保健講話のスズメ」

08

書籍紹介

21世紀の四半世紀によせて
教育と文化の創造

長野県教育文化会議議長 寺尾真純



明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、新たな思いで新年を迎えられたことと思います。私は年末年始を九州で過ごしました。見聞きすることから様々な関係性が見えてきます。噴煙たなびく桜島を一周し、訪日旅行者の多い博多の街を歩いてみました。知りたいこと、確かめたい、突き詰めたものはリアルな現場にあることを感じます。

さて、日々の生活をめぐり物価高、低賃金長時間労働、格差と差別、ジェンダーギャップ指数、G7最下位の報道自由度、利権・利潤追求ーあ

らゆる場面でビジネス化、金融経済優先の政財界の所業は人々の幸福の意味合いをも変質させてしまっているかもしれません。ICT、SNSのもたらす社会も複雑さを増しています。誹謗中傷やフェイクニュース、見たいものだけを「事実」とし、それ以外は虚偽とする。極端なものを見方で、分断と対立に苛まれる危うい社会の進行も感じます。

今年は大戦後80年となります。戦争の世紀を体験し、21世紀は平和、人権の世紀の創造が求められてきました。被団協のノーベル賞受賞も平和への展望を世界に示すものになったと思います。50年100年後はどのような社会になっているのか。様々な事象がより複雑に絡み合う中、今後、人類は何処に向かうのか。主権者、地球市民として未来を展望するに当たり、新たな社会システムの創造についても語られることが多くなっているかと思っています。

時は21世紀の四半世紀。未来の創造にあたり当事者として改めて教育の果たす役割、意義を感じます。多様性欠如、定型化、画一矮小化が教育の貧困化を招いています。現場では様々な課題や個別事例へ柔軟な対応も保証されにくい状況が加速して

います。昨今の教育政策に対して、先ずは、実態からスタート、そもそも、誰のため、何のための教育なのか、公共財として、“そもそも”が教育活動への始点になるかと思えます。このような状況の中、教文会議の自由闊達な取り組みはその意義を益々増します。節目の年に当たり、健康、同僚性のもと、参加と共同、リアルで手応えのある取り組みを追求、専門職性の広がりと深化をはかり、新たな教育と文化創造へ共に歩みたいと思います。

学校保健研究会 第100回記念 全県研究会を開催

学校保健研究会では、今年度2回（8月、12月）全県研究会を開催することができました。

夏の第99回全県研究会では、「災害等に備えて私たちができること」というテーマで4名の実践報告、防災アナウンサー×環境省アンバサダーの奥村奈津美様の講演、長野県危機管理防災課指導の「クロスロード」の演習を通して、災害時の対応や備えについて学びました。各自持参の居住地のハザードマップで自宅の災害発生時の危険度を確認したり、スマホで1分で行ける防災診断をしたり、とても参考になる内容でした。

冬の第100回全県研究会では、「すべての子供たちが笑顔で過ごせる学校生活を目指して」と



いうテーマで、3名の実践報告、信州大学遺伝医学教室教授の古庄知己先生の講演、グループ討議を通して、障害の有無に

関係なくすべての子どもたちが共に学び、成長できるような教育環境の整備について学びました。講演では、困った経験はその子の成長のチャンス。私たち周りは、困らないように、失敗しないようにと、良かれと思って先回りして手を差し伸べてしまうけれど、それは逆にその子の成長のチャンスを奪ってしまったこともあると話され、ハッとしました。また、名前は聞いたことがあるけど、というような遺伝性疾患の数々を、学校での対応も含めて丁寧にお話いただき大変勉強になりました。そして、第100回を記念し、集合写真の撮影と4色ボールペンの記念品を配布しました。

11月の教育研究集会では、高校からは2名のレポーターにより大変有意義な研究集会となりました。救急対応からの学びから頭部外傷アセスメントシートを作成した内容と、養護実習生を受け入れてみての振り返りの内容で、どちらもとても参考になる内容でした。

そして、今年度も引き続き学校保健研究会のあり方



を検討する機会を得ることができました。どんな世代もその時々状況に合わせ、活動を継続していくことがとても重要です。学校保健研究会や仲間が存在が助けになることがあっても、負担に感じるようでは本末転倒です。これからも活動のスリム化と役員負担の軽減を図り、研究会が末永く継続していくことを願います。

2024 学校保健研究会長

南安曇農業高校 飯森美智子



2024 年 12 月 14 日（土） キッセイ文化会館

第32回全国教育研究交流集会

12/21・22 民主教育研究所主催

平丸久美子先生のお話は示唆に富む内容でした。演劇をおして生徒が成長していく様子が伝わってきました。「絵本と演劇で紛争を止める」という取り組みのお話も興味深い内容でした。そして、「子どもは今を生きている」という言葉が心に突き刺さりました。学校現場では生徒に対して、とかく「今は我慢して将来に備えよう」というアプローチをしがちです。とても考えさせられました。

2日目は地域教育の分科会に参加しました。大東文化大学の松田先生が進行を務められ、11名の参加者の中で情報交換と意見交流ができました。とくに印象に残ったのは、茨城県立荃崎高校の國井先生の教育実践報告で、高校統廃合の波の中で全日制から課程の転換があり、課題を抱えた多様な生徒が多く入学して困難な状況にあったものの、①学校を地域に開く、②保護者と関係を深める(年4回の懇談など)、③一人ひとりの生徒に寄り添うことで学校がとてよくなっていたというお話をお聞きできました。義務教育では特別支援を受けていた生徒や特性のある生徒が多い学校なので、2年次から就労に向けた学習を取り入れて、円滑に就職・就労につなげる試みなどのお話もとても参考になりました。

全体を通して、新自由主義路線による効率重視

の学校統廃合と公教育の市場解放と商業化に対する危機感を再確認した会になりました。國井先生の取り組みにある、地域社会・地域住民と保護者との連携・連帯を基盤に対抗軸を構築することが必要だと思いました。長野東SFへの統合が喫緊の問題です。過日、長野東高校(女子)が駅伝で見事優勝しました。通信併置の3部制では大会に出られないことが懇話会でも話題に上り、統合のあり方も不透明になってきました。時にはマスコミもうまく使って、地域社会・生徒・保護者にとつてよりましな統廃合にしていくことが必要だと痛感しました。

長野西高校 吉沢道夫

民主教育研究所第33回全国教育研究交流集会(テーマ「いま、語り合おう、公教育の未来」)にOnlineにて参加しました。

初日は午前のラウンドテーブル(「奈良教育大学附属小学校をめぐる事態の経過と本質」、午後の平丸久美子さん(ピースセルプロジェクト「絵本と演劇で紛争を止める」)講演「『絵本と演劇で紛争を止める』」というための学びの後半)、続くシンポは「子どもの居場所づくりから「公教育」を考える」のタイトルのもと、フリースクールの活動紹介、公益財団法人による高校内カフェ紹介、仲田康一さん(法政大学)から「居場所づくりから公教育の課題」と題し、公教育の現状とその擁

護に向けた氏なりの立論紹介がありました。不登校生徒の激増のデータ提示や、個人的に県内においてもフリースクールや不登校児童生徒にまつわる状況を地区教研等で知る機会もあり、今後の公教育のありよう、取り組みについて改めて考えさせられました。関係性を構築し、出番や居場所があるはずの学校が小学校からCOS(学習指導要領)体制や「ステルス校則」「学校スタンダード」等ががんじがらめにされ、対話する時間も喪失、歪みが児童生徒、教職員にも及んでいます。私は、仲田立論の続きとして2日目も「教育課程」分科会に参加しました。動き出している次期学習指導要領改訂に関する有識者検討会の論点整理(2024年9月18日)への言及、「公教育」が問い直される危機的状況のなかで、求められている学校(教育課程)の姿、及び教育実践の自由な創

民研

いま語り合おう、公教育の未来

すべての子ども・若者に学び喜びと生きる希望を

第33回全国教育研究交流集会

1日目

ラウンドテーブル 会場・オンライン併用
10時~12時 奈良教育大附属小問題

全体会 会場・オンライン併用
13:00~17:00

講演 平丸久美子(篠原久美子)さん
(ピースセルプロジェクト「絵本と演劇で紛争を止める」)
「絵本と演劇で紛争を止める」と言うための学びの後ろ

シンポジウム
子どもの居場所づくりから「公教育」を考える
コーディネーター 富田克保さん(相模女子大)
シンポジスト
山中 梓さん (よこはまユース)
三井昌樹さん (スコーレ・ムンライト)
仲田康一さん (法政大学)

交流会 18:00~ 全国教育文化会館

2024年

12月21日土
22日日

1日目の全体会は、
全国教育文化会館
オンラインの併用
2日目は原則オンライン

申し込み
*参加無料 申込者は
12月18日まで下記フォームへ
<https://forms.gle/FPEKRaRGYgTEUA>
メール(office@min-ken.org)の場合
は、氏名・フリガナ・メールアドレス・所属と
全体の参加方式、希望
する分科会名を記入して
下さい。前日までに案内と
資料を送ります。

主催
民主教育研究所
東京都千代田区二番町12-1
全国教育文化会館 8F
Tel 03-3261-1931
Fax 03-3261-1933
office@min-ken.org
<https://www.min-ken.org>

2日目

分科会 原則オンライン
10:00~16:00

1. 子ども・若者とともに
今を変える
2. 地域社会と高校教育
の課題
3. 特別支援教育
4. 教育課程
5. 地域と学校
6. ジェンダー平等と教育
7. 環境と地域教育
8. ぜんぜいの未来をひらく
9. 憲法と平和教育



全校授業見学会

12月19日に「授業づくり研究会」が行われました。この研修会は、管理職も含めⅠ部・Ⅱ部・Ⅲ部の全職員が参加し例年実施しています。授業見学会では、授業者ではなく生徒の様子や取り組みを見ることに主眼を置き、そこから授業改善や授業における教員のスキ

ルアップに繋げることを目的としています。また、年間を通じて各学年で6回授業見学会を実施しています。多様な生徒を抱える本校においていずれも大変有意義な取り組みで、10年以上継続しています。

今年度の「授業づくり研究会」は、長野大学教授の早坂 淳先生を講師にお招きし、午前中4時間を授業見学会（全授業を自由に見学）、午後は全体研修会（Ⅰ部普通科2年3組の数学Ⅱの授業見学）、授業検討会、講演会の日程で行いました。全体研修会では、対面と別室でオンライン授業を

職場教研を実施

Ⅰ部・Ⅱ部・Ⅲ部 全教職員による

「授業づくり研究会」

箕輪進修高校

造の意義について、関連した実践報告（中学社会・高校家庭科）と元生徒からの発言等々、意義深い集会でした。

新自由主義の施策が学校の在り方、公教育の在り方を根本から変質させてきています。かつて堀尾輝久さん（東大名誉教授）は「公教育」について、「教育が一人ひとりの人権に根ざし、その教育は国民の共同の努力によって生み出され、支えられていくべきものであり、その内容がすべての者に共通の基礎的な教養となるべきことが、教育の“公共性”の含意となってくる」と論じています。文科省、経産省、内閣府、こども家庭庁それ

ぞれ動きがありますが、子どもの発達を充足する視点を押さえているでしょうか。公教育の危機的状況が進行する中で、「公教育」とは何か、改めて問い直しが求められます。

岩村田高校 寺尾真純

（民主教育研究所は、1992年の設立以来、日本の教育の現実と切り結び、世界の動向にも目を向けつつ、子ども・青年の尊厳と権利を尊重し、その成長・発達を促す教育と教育研究の発展のために活動してきている研究団体です）



グループ別授業検討会

受ける生徒がいる形式の授業を見学しました。続く授業検討会では、グループ別になり授業での生徒の様子や気づいた点を共有しました。多くのグループからICT機器の利点とオンライン授業の課題が出されました。最後に、早坂先生より「なぜいま共働的な学習なのか」「つながり」のもつ教育効果に着目して」というテーマで講演いただきました。これからの時代を生きていくための学びとは何か、その力をどのように身につけさせるのかを考えさせられる内容でした。45名の参加があり、今後の授業づくりに大いに役立つ研修会となりました。以下に参加者の感想を紹介します。

(1) 授業づくり研究会を通して学んだこと

・教師が前に立たなくてもできる授業。↓自宅からのリモートも実現可。

・オンライン授業を見せてもらって教室ではない所でも学べることを学びましたが教室でないところからない事への対応が難しいと思いました。

・オンライン授業における生徒のケア↓個別学習(オンライン学習)の中で参集の生徒と同時にこのような生徒の学びをどのように展開していくかとても考えさせられる授業でした。

・自身の授業と今回の授業で生徒の姿・行動に違いがあつて新鮮だった。

・オンライン授業を行う上で、必要なデバイス環境を知ることができた。学校全体にこの環境を整えることも課題。

・安心して学べる場所の保障も大切なことの一つだという事

・オンライン授業のイメージを持つことができた。やる側は分かるが見る側の視点で見たのは参考になった。

・グループの発表を聴くことにより、自分の見えていなかった視点にも気付くことができました。
・協働的な学びをするためには、学校での集団が大切な気がしました。学校で集団で学んでいる意味も考えながら授業をやつていきたいと思ひます。

(2) 早坂先生の講演をお聞きして学んだこと

・「探究」「協働」↓複雑化する未来を生徒が生き抜くために不可欠な力。

・元々バラバラな生徒には、バラバラな職員集団が協働して対応する必要性が良く判った。

・多様性(ばらばら)があるから生徒を多面的に見ることができるといふ点と、生徒のばらばらもつながることによって化学変化を起こすと感じます。

・生徒のウェルビーイングを目指すためのキーワードがつかないと、有実感と自律であるという

2024教育のつどいレポート紹介

養護教諭が行う保健講話のススめ

～保健室に来室しない生徒へのアプローチ～

長野南高校 佐藤知子

I はじめに

昨年12月、教文会議学校保健全県研究会の信州大学教育学部准教授の茅野理恵先生の講演の中で、子どもたちが人に相談することのハードルが上がってきている(感じていることをうまく言語化できない、「自己責任」の時代だとばかりに自立を求められている感覚、浅く広い人間関係への変化、忙しい家族や先生の迷惑になってはいけないと思つてしまう、等)とお聞きした。大人のほうからこどもの不安を理解して寄り添っていくことが必要になってきている、との内容だった。

一昔前のように、「養護教諭だから」「保健室だから」という理由だけで子どもたち自ら相談に来

点、授業づくりに生かしたいです。

・板書を写させる中でも考えてまとまりの中で行わせることの重要性をとても痛感しました。今後の授業の中で意識して実践していきたいと感じました。

・今までは集団の中から飛び出してしまう生徒がいた場合、「困るなあ」と感じてしまっていたが、「ばらばら」なのが普通なのだと気づかされた。

る時代ではなくなつてきていることを感じている。自分の学校の養護教諭が果たして自分の相談にのってくれる人なのかどうか、一度でも養護教諭と関りがあつた生徒ならば多少は判断することができ、相談相手として選ばれ、相談につながっていく可能性もあるが、保健室とあまり接点なく過ごしている生徒にとっては、相談してみようとは考えにくいかもしれない。イマドキの子どもたちは自ら率先して相談にこないとなると、個々で関りのある特定の生徒だけではなく、できるだけ多くの生徒に、「うちの養護教諭は話を聞いてくれそうだ」と思ってもらえるように、こちらからアプローチしていく必要がある。

そこで、養護教諭による保健講話を提案したい。保健教育として保健だより等による指導はたいいての養護教諭が実践していると思われる。もちろん全員に配布しているものの、隅々まで読んでくれている生徒もいれば、まったく目を通さない生徒もいる。例えば、人間関係について、こういう考え方のクセはないか、という問いかけも、本当に届けたい生徒には届かないことが多い。一方で対面の保健講話等はどうかというところ、こちらも聞いていない生徒は当然いるのだが、「ライブ」の中で、全部は無理でも、部分的には聞いている。そして何よりも、養護教諭の人となりを知ってもらえる機会となる。(最初の自己紹介くらいはおそらく聞いている)「保健室にはこんな人がいます」と宣伝するには絶好の機会となるのではないだろうか。

Ⅱ 本校の現状と課題

Ⅲ 実践の実際

1. 時間の確保

2. 実施日および対象

3. 実施方法

4. 内容について

講話タイトル

「人間関係について〜知っておいてほしいこと〜」
保健室に持ち込まれたことのある人間関係にま

つわるいろいろな相談の中から、思春期に抱えやすい悩みにフォーカス、自分事としてとらえやすい内容にし、物事のとらえ方や考え方を提案。

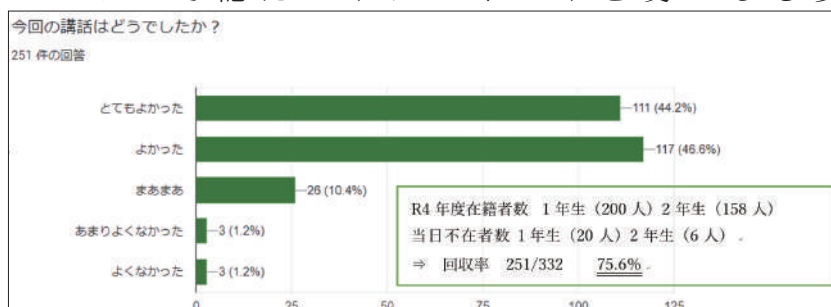
昨年度の学習指導要領改訂により、高校の保健の授業で精神疾患について扱うことになったことにも関連させ、10代も多く、いつ誰がかかってもおかしくない病気であることを伝え、相談を促す。

材料は、これまでに受けた研修内容でピピッときたこと、学校保健ニュースや雑誌「健」の記事、ネット(FB等)の精神科Dr.や心理カウンセラーの記事、テレビやラジオで琴線に触れた言葉などをスマホのメモ帳やLINEのkeepメモに書き込んだり、写真を貼ったり、記事のURLごと貼付けておいたもの。

5. googleフォームへの生徒の感想

Ⅳ 成果と課題

Googleフォームの回収率は75.6%、講話を聴いていた全員から感想アンケートを回収できたわけではないが、そのうちの90.8%の生徒が「とてもよかった」「よかった」と回答、感想



の内容を見ても概ね自分たちに関係のある、身近な悩みについての話題として好意的にとらえられたようである。また、勉強や部活等を頑張っていて保健室には来たことがないと思われる層から「相談をしたことがなかったからこそのいい時間だった」「もつとやってほしい」等のコメントがあり、次年度も継続してやっていきたいと感じさせてくれた。数は少ないものの、質問や疑問の投げかけも来ていたので、言葉を選びながら回答を作成、後日 Google クラスルームに掲載した。当事者たちがどう受け止めたのかは不明。

〈その後の保健室で…〉

春休みが明けた新年度、新学期が始まり、連休明け、健康診断行事も落ち着いたところを見計らって相談で来室する生徒には、新顔がちらほら。「先生ならわかると思って…」「3月にしてくれたあの話あるじゃん」「ここへ来た方が話が早いと思って…」「私、小中では保健室に来たことがなかったんだけど…」「先生ならどう考えるのか聞きたくて」「先生の話は、そんなの当たり前のことじゃない!」って聞いていたけど、なんとなく思っていたことを言葉に落としてくれてすっきりした。みんなよく聞いとけ! って思った」等、うれしい反応があった。中には、本人はその当時あまり聞いていなかったものの、友達から「保健室の先生ならわかってくれるから、話してくれば」と言われてきてみた、「今度はちゃんと聞くから、また講話してほしい」という生徒もいた。端から全生徒が聞いてくれるとは思っていなかったが、この年代の友達ネットワーク(口コミ)は想像以上に強力

で、続けていけば耳を傾けてくれる層が増えていくのかも知れない、と期待できる出来事だった。

この春の新生人生にも保健室オリエンテーションの中で同様の内容をコンパクトにしたものを織り込んで伝えたため、今年度は養護教諭のこの内容の講話を一応全校生徒が聞いた状況からスタートしている。昨年度 1 年間は同じような悩みを抱えてやってくる生徒一人ひとりに時間をかけて同じような話をしていたが、今年度は基本の話をしてある前提で相談対応を開始できることが多いので、相談件数自体は増えていても、相談時間は短縮され、かつ丁寧に対応しやすくなり、仕事の効率化、働き方改革にもなったのではと思っている。

生徒たちの養護教諭への相談のハードルが下がったことを感じるし、非常に効果的な取り組みだったと自負しているが、課題もある。ついついあれもこれも伝えておきたい、と欲張って盛り込み過ぎ、後ろの方が駆け足のマシガントーク、挙句の果てにスライド省略になってしまふ。「養護教諭はこういう時にいかにせんしやべりすぎるから気をつけろ」「いいか、50 分の授業のうち、生徒の頭に残るキーワードは 3 つまで！」と、初任の頃、保健の授業を代わりにやらせてもらいご指導を受けた教頭に言われたことを、30 年経った今でもなかなかクリアできておらず、毎回やり終えたあと、もっとシンプルにすればよかった、あ

あすればよかったのにと一人反省会、にも関わらず、次の機会にはまた新たに盛り込みたい内容があればこれも生まれてきてしまい、取捨選択する検討時間が取れないまま、結局早口についてい

けない生徒を取り残し、用意したスライドも飛ばし飛ばしでお蔵入りとなってしまうがちである。たまにしか講話の機会のない養護教諭にありがちな失敗なのかも知れないが、このことは今後も課題として気をつけながら取り組んでいかねばならない。

V 終わりに

すでに精力的に実施されている方にしてみれば、今さら何を言っているのかと言われそうだが、やってみたいけれど時間の確保がなかなかできないでいる方、養護教諭が生徒の前で保健講話をする必要はない、とお考えの方もいるかも知れない。かく言う私も、実は養護教諭が子どもたちの前で話をするのはどうなんだろう？と思っていた側だった。みんなの前に出ない養護教諭だからこそ、自分と一対一で話を聞いてくれる、秘密を守ってくれる、と思ってもらえるでは、と考えていた頃もあった。

個々に対応した個別指導はもちろん重要である。が、個別指導だけでは養護教諭の持つ情報量は非常にもったいない。我々養護教諭は実に様々な健康にまつわる情報を持っている。実際、養護教諭はいろいろな研修を受けられる立場にあり、県の主催だけでなくとも官制研修のほかに、いろいろな研修案内（性被害防止、自殺予防、SOS の出し方教育、精神保健、アレルギー等々）が届き、さらに執務に役立ちそうな民間研修も喜んで（？）受けに行く。コロナ禍を経てオンライン研修が増加し、受けやすくなったことによりさらに拍車が

かかっているという人もいるのではないだろうか。また、我々養護教諭は基本的に「健康オタク」なので、普通に生活していても、テレビ・ラジオ・ネット等で流れてくる情報を何かに役立ちそうだからととりあえずゲットしておく習性（？）もあるので、講話の材料には案外困らない。

これからの養護教諭には、生徒が保健室にやってくるのを待っているだけではなく、相談相手に選んでもらえるようにこちらからアプローチしていく要素も必要だと思われる。もちろんそもそも相性が合う合わないはあるだろうが、相談相手として選んでもらう可能性を広げるために、ぜひやってみたいだきたい。

養護教諭の人となりを知ってもらい、相談しやすい状況を作り出していける保健講話、おススメである。

※紙幅の都合で、一部抜粋掲載しています。レポート全文は、デジタル版 38 号で紹介しています。

人間関係について
～知っておいてほしいこと～

長野県立高校 1・2 学年
RS.3.14



まず「思春期」について。

- ・「思春期」とは……
10-18 歳くらいのこと
大人への階段を上っている途中段階
体も心も劇的に成長中。

急にイライラ 悪地悪したくなる
なんだか宜だに腹が立つ
人が自分より賢いと思えるようになる
大人は信用できない 親と話したくない
人には言えない悩みがある

人間関係についての考え方・受け止め方のクセを見直す



「友達 100 人できるかな」神話

♪歌「1 年生になったら」♪
親も、先生も、子どもたちも……
「友達はいない方がいい」
「友達ができるから心配」
「同じクラスだから仲良くしなきゃいけない」
「あの子、ぼっちだ (depot)」

本当にそうでしょうか？

学校・クラスで一緒になったのはただの偶然。

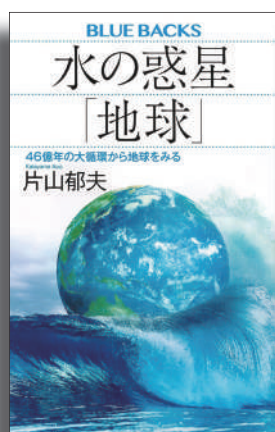
- ・学校は、性格も思いも違う人間が、またまた偶然に集められてしまう場所。
- ・自分とは異なるいろいろな価値観や考え方に触れ、新たな気づきを得たり、人として成長していく場所でもあるけれど、ただ偶然、同じ場にいただけの人間にそこまで執着しなくてもいいのでは……？
- ・学校・クラスが自分のすべてではない。

ありのままの自分を大切にしてくれる人の存在を見逃さないように冷静になろう。

「1:7:2」の法則

人間関係においては、
○何をしていても合わない人が 1 割
○行動によって合う・合わないが分かれる人が 7 割
○何をしても合う人が 2 割
(心療内科・カウンセラー・ロジャース)

合わないのは自分の努力不足ではない！
「そういう人もいる」と納得しよう。



「忙中閑あり」。年度末の業務多忙の時期ですが、時間を見つけて読書のススメ。読後感をお待ちしています。

常任委員がオススメ 書籍紹介



教文通信写真館 エッセイ (つづき)

スズメの年間減少率が 3.6% にのぼり、鳥類の絶滅危惧種Ⅱ類の基準 3.5% を超えたということをご存じですか。

2024 年 10 月、環境省は「モニタリングサイト 1000 里地調査 2005-2022 年度とりまとめ報告書」を発表しましたが、鳥類ではスズメの他、日本固有種のセグロセキレイが 8.6% のほか、幾つかの種が超えているそうです。「そういえば、スズメの群れを最近見た記憶がない」という方もいるのではないのでしょうか。減少の原因は、営巣に利用していた隙間の多い木造家屋の減少、餌場である開けた田畑や草原の減少など、スズメが依存していた人間の生活様式の変化と、地球温暖化に関わる地球レベルでの環境変化が原因と考えられています。

さて、今回の写真のセグロセキレイです。日本には、ハクセキレイ、キセキレイなど数種類の仲間が生息していますが、セグロセキレイはセキレイでは唯一日本の固有種に分類されています（国立科学博物館日本固有種目録）。私が野鳥観察を始めた 1970 年代には、安曇野の河川の中州や田畑の水路で普通に観察できたのですが、報告書の通り最近ではめっきり姿を見ることができなくなりました。一方、姿がセグロに類似しているハクセキレイはユーラシア大陸に広く分布しているタイリクハクセキレイの亜種です。かつては東日本では冬鳥として観察されましたが、近年急速に繁殖域が南下して、現在では九州でも繁殖しています。生息場所はセグロセキレイが河川など水辺に近い場所に限定されている一方、ハクセキレイは水辺に限らず都市部の公園、駐車場など乾燥した場所などいたるところで観察できます。

日本の河川改修以前の河川環境に適応したセグロセキレイ、幅広い環境への適応性を持つハクセキレイ、それぞれが昨今の気象変動や人間活動など環境の変化の影響を受けて種の分布域や個体数の変化を起こしているのかもしれません。生物多様性のホットスポットに指定されている日本の豊かな自然が今後も保全されることを願っています。

セグロセキレイ 2024/01/28 松本市

報告 「県教研分科会再編について」

現在、県教研企画推進委員会では、県教研の分科会再編について検討をしています。とりわけ、課題別分科会については、今日的な教育課題を多方面から検討する必要性が増している実状から、大テーマで分科会を設定し、必要に応じて小分科会や分散会を開催することを想定しています。改めて皆さんにお諮りします。